
車庫入れ完全攻略本

はじめに

車庫入れが苦手、嫌いという方はとても多いと思います。この本に辿り着いたあなたも車庫入れについて何か悩みを抱えているのではないのでしょうか。私は普段、ペーパードライバーを相手に運転を教える出張型のペーパードライバー講習を行っていますが、お客様の中でも車庫入れを苦手としている方は本当に多いと実感しています。車庫入れは1日や2日で出来てしまうような簡単な技術ではなく、どうしても地道な練習が不可欠となります。それ故に車庫入れがなかなか上達しない状況に「自分には車庫入れのセンスがない」と思い込んでしまい途中で挫折してしまうことが多いと感じます。

個人的な意見になりますが、車庫入れに「センス」は関係ないと思います。なぜなら、車庫入れを最初からスイスイこなしてしまうような方に今までに出会ったことがないからです。私は自動車学校の元指導員で今までたくさんの教習生を見てきましたが、どんなに運転が向いていそうな教習生でも後退操作となると面白いくらいに出来なくなります。では、車庫入れには何が必要なのか？それは「知識」と「経験」だと私は信じています。さらに言えば、この「知識」と「経験」は習得する順番も大切で、「知識」を習得した後に「経験」を積み重ねていくのが一番効率的に車庫入れ技術が上達していきます。特に「知識」が備わっていない状態で見様見真似で練習をしてしまうと全く車庫入れ技術が上達せず、それが「自分には車庫入れのセンスがない」という勘違いに繋がってしまいがちなのです。

大切なことなのでもう一度言いますが、車庫入れに「センス」は関係ありません。まずは車庫入れに必要な「知識」を身に付けることから一緒に始めてみませんか。

運転教室スタートライン

稲山 巧

目 次

はじめに.....	1
第一章 なぜ車庫入れは難しいのか.....	4
(1) 四輪車の構造的な問題点	5
(2) 四輪車と自転車との関係性.....	6
(3) 運転免許制度の問題点	7
第二章 後退操作のメカニズム.....	9
(1) 前輪の向きと動き方	10
(2) ハンドルの回転数.....	12
(3) 内輪差と外輪差	14
(4) 後退時の安全確認.....	18
第三章 効果的な練習方法	21
(1) ハンドルをまっすぐの状態に戻せるように	22
(2) 狙った場所にバックできるように	23
(3) 直角バックの曲がり具合を掴めるように.....	26
(4) 幅寄せができるように.....	28
第四章 車庫入れの練習をする上での注意点.....	31
(1) 車庫入れの練習をする場所.....	32
(2) 輪止めについて	33
(3) 練習相手は選んだ方がよい.....	34
(4) 車庫入れはすぐに上達はしない.....	35
第五章 車庫入れの手順	36

第六章 車庫入れの応用テクニック	44
(1) 特殊な駐車場での駐車方法	44
(2) 有料駐車場での車庫入れ	47
(3) 立体駐車場での車庫入れ	49
おわりに.....	51

第一章 なぜ車庫入れは難しいのか



みなさんは、そもそもなぜ車庫入れは難しいのかを深く考えてみたことはあるでしょうか。一般的な普通乗用車の場合、車輪が4つあって、ハンドルを回せば前輪の向きが変わり、車が曲がっていくというとてもシンプルな乗り物です。車輪の数や車体の大きさなどを除けば動く仕組み自体は子供の頃から乗っている自転車と何ら変わらないですよ。私が自動車学校で指導員をやっていた頃も、車を発進させて場内コースのカーブを曲がることくらいは運転の練習を始めた初日の教習生でもある程度できるようになります。

それが後退操作となると一気に頭が混乱してどっちにハンドルを回せばいいのか全く分からなくなってしまいます。全く同じ乗り物なのに前進させるのと後退させるのとではどうしてこんなに難しさが違うのか不思議に思ったことはありませんか？そこには後退操作を難しくさせる要因が存在し、その要因を解明していくと車庫入れをマスターするために何が障害となっているのかが自然と見えてきます。

(1) 四輪車の構造的な問題点



車庫入れを難しくさせる要因の一つに、まずは四輪車の構造的な問題点があります。その問題点の1つ目としては、運転席が前向きに付いていることです。当たり前の話ですが、車を後退させる時には下半身は前に向けた状態のまま上半身だけを後ろにひねって操作しなければなりません。顔は後ろを見ていてもハンドル操作やペダル操作などは前向きのまま操作することになるので、どうしても頭の中で混乱しやすくなってしまうのです。男性の方だとネクタイをする機会が多いと思いますが、ネクタイを締める時も自分では難なくできることも他の人にネクタイを締めようとするとき向きが分からなくなってしまう感覚に近い気がします。また、ドアミラーやルームミラーについても同じことが言えますが、映っている景色は実際の景色が反転して映っているのでこれもまた混乱しやすいのが特徴です。

2つ目の構造的な問題点としては、四輪車には運転席から見えない部分（死角）がとても広いということです。一般的な普通乗用車の場合、前方の死角は約5メートル（普通乗用車1台分）になります。それに対して、後方の死角は約10メートル（普通乗用車2台分）にもなります。後方の死角の範囲が倍近くになってしまうのは、運転席が前向きに付いていることが原因で、それが後退操作の難しさに繋がってしまっています。最近では車の周囲の全方向がカメラで見渡せるバックモニターやハンドルを回してバックした時にその進む方向が表示される機能が付いて車なども登場していますが、まだまだ未発達な部分もありますので四輪車特有の弱点をよく理解しておくことが重要と言えます。

(2) 四輪車と自転車との関係性



ある調査によると、日本人の中で自転車に乗ることができない人の割合は 100 人に 1 人というデータがあります。世の中には人々が移動手段として利用している乗り物がたくさんあります。自転車、原付、オートバイ、車、タクシー、トラック、バス、電車、船、飛行機。数ある乗り物の中でも、人生で初めて運転する乗り物は自転車になるのではないのでしょうか。幼稚園や保育園の頃から乗り始めて、車の免許を取るまではほぼ毎日自転車に乗っていたという方も多いと思います。小さい頃から当たり前のように乗っていた自転車が四輪車の運転にも大きな影響があるのは当然の考えだと思います。

この第一章の冒頭でも述べましたが、車輪の数と大きさを除けば四輪車と自転車の動き方はほとんど変わりません。特にハンドルで前輪の向きを変えて動かすという部分が似ていますので、生まれて初めて四輪車を運転する人でもハンドル操作に関しては説明しなくても直感的に操作することができます。では、なぜ後退操作は上手くいかないのでしょうか。それは自転車に乗っている時に自転車を後退させるような場面がほとんどないからです。自転車に乗っている時のことをイメージして欲しいのですが、自転車は車体がとても細いので狭い道でも前進だけでだいたい通り抜けられますし、駐輪場も前進で停めるタイプばかりですよね。自転車を後退させる経験が少ないことこそが四輪車を運転した時に後退操作が上手くできない大きな原因となっているのです。

(3) 運転免許制度の問題点



遠い昔に免許を取った方は忘れてしまったかもしれませんが、自動車学校では「車庫入れ」が教習の必修項目や卒業検定の課題に入っていません。その代わりとなるものに「縦列駐車」と「方向変換」というバックの課題があります。この二つはいずれも後退操作を練習する課題ではありますが、車庫入れの操作とは微妙に異なりますのでそれをそのまま車庫入れに応用させるのはなかなか難しいです。

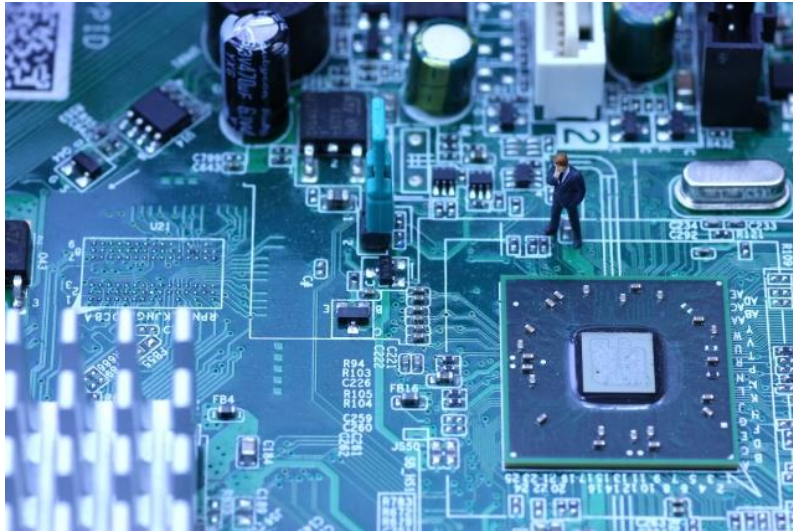
さらに問題なのは自動車学校の教習方法です。自動車学校によって少し差はありますが、この縦列駐車と方向変換の練習する時限（1時限 50 分）は 3～4 時限と明らかに足りていないため、いわゆる「目印教習」という教習方法に陥りやすいです。目印教習とは要するに自動車学校のコースでしか通用しないその場しのぎの方法を教えることを意味していますが、もちろん実践では全く役に立ちません。

ただ、私も自動車学校の元指導員なので少し弁解させて頂きたいのですが、自動車学校も目印教習を好んでやっている訳ではありません。自動車学校の教習は自由自在にカリキュラムが組めるものではなく、卒業させるまでにこなさなければならない項目や練習できる時間かなりの制限があります。その結果、必然的に後退操作の練習にかけられる時間が短くなってしまい、既定の時間内で教習生を卒業させられるレベルまで仕上げるには目印教習をやらざるを得ないのが現状なのです。

「なぜ車庫入れは難しいのか」、その要因をいくつかご紹介しましたが、ここであなたに何を伝えたいのか。それは、車庫入れが難しく感じるのは決してあなたのせいではないということです。車庫入れが上手く出来ないと車の運転自体が自分に向いてないので

は？と悲観的になってしまわないで欲しいのです。「車庫入れが出来ないのは普通のこと」「車庫入れが出来ないのはあなただけじゃない」と車庫入れが出来ないことを恥じることもしないですし、いっそのこと誰かのせいにして気持ちを楽にして欲しいですね。

第二章 後退操作のメカニズム



第一章では、「車庫入れがなぜ難しいのか」という点に注目しましたが、四輪車の後退操作は前進操作のように直感的に動かすことが出来ないのが分かって頂けたと思います。では、直感的に動かすことが出来ない後退操作を思い通り自由自在に動かせるようになるにはどうしたらいいのか。それは後退操作のメカニズムをとことん研究して、その特徴を熟知することが大切です。それでは、後退操作のメカニズムについて一つ一つ見ていきましょう。YouTube 動画のリンクも貼り付けてありますので参考にしてください。

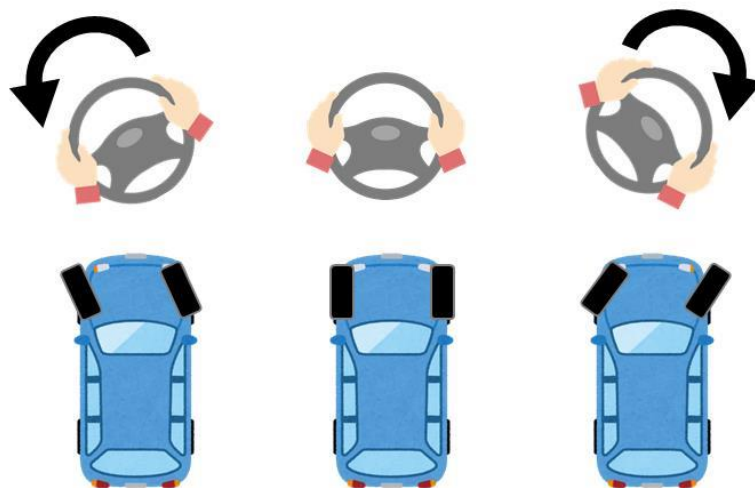
【元指導員が教えます！車庫入れのメカニズム！】

<https://youtu.be/tsaXBqo9Hh4>

(1) 前輪の向きと動き方

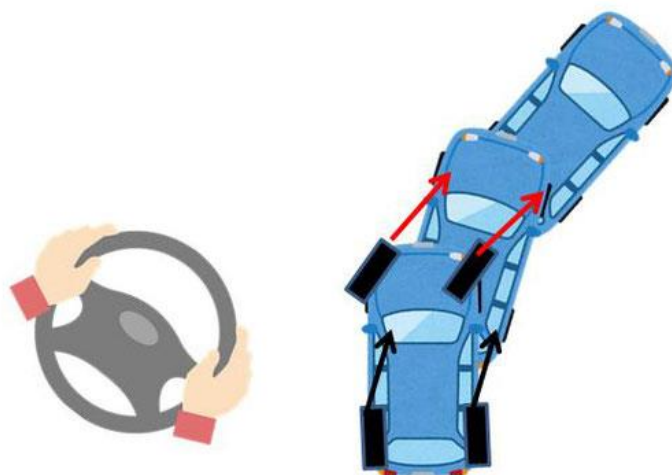


みなさんはハンドルを回した時は前輪の向きはどのように動いているのかイメージできるでしょうか。イメージがつかないという方は自転車でイメージすると理解しやすいです。ハンドルの回す方向と前輪の動き方は下の図のようになります。とても初歩的なことですが、前輪がどのように動いているかが完璧にイメージ出来ているかが後退操作にはとても重要です。最初はハンドルを回してみた後、車から降りて実際に前輪の向きを確認してみるのも良い体験になります。

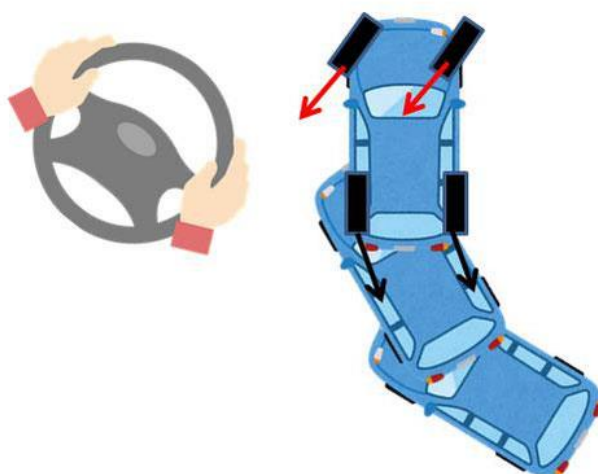


今度は車の向きが変わるメカニズムを見てみましょう。例えば、下の図はハンドルを右に回して前進していますが、前進は前輪の向きが変わって前輪が進む方向に後輪が引っ

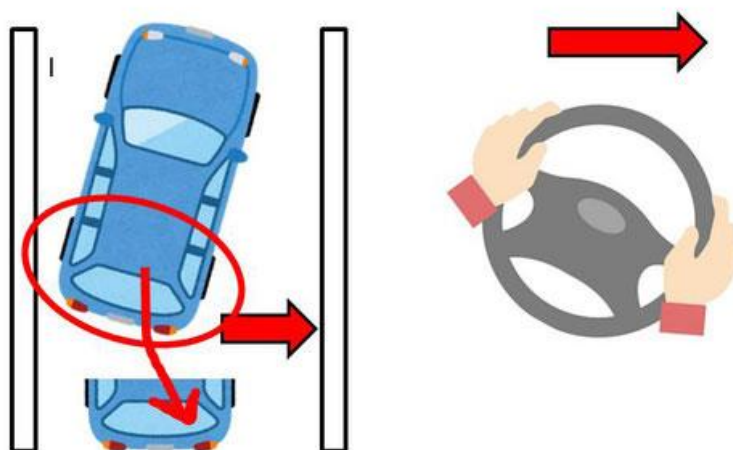
張られるように動くのが特徴です。これは第一章でも述べましたが、自転車と同じ動き方をするので車を初めて動かす方でも直感的に動かすことができます。



次は後退の動きを見てみましょう。例えば、下の図はハンドルを右に回して後退していますが、前輪の時とは動き方が少し違うのが分かります。前進の場合は前輪が進む方向に後輪が引っ張られるように動くのが特徴でしたが、後退は前輪が後輪を後ろから押し出すように動くのが特徴になります。この後退の動きは自転車ではあまり行わない操作になるので直感的にハンドルを操作することがなかなかできません。特に運転に慣れていない頃は、後退する時にどちらにハンドルを回せば良いか分からなくなってしまうことがよくあります。



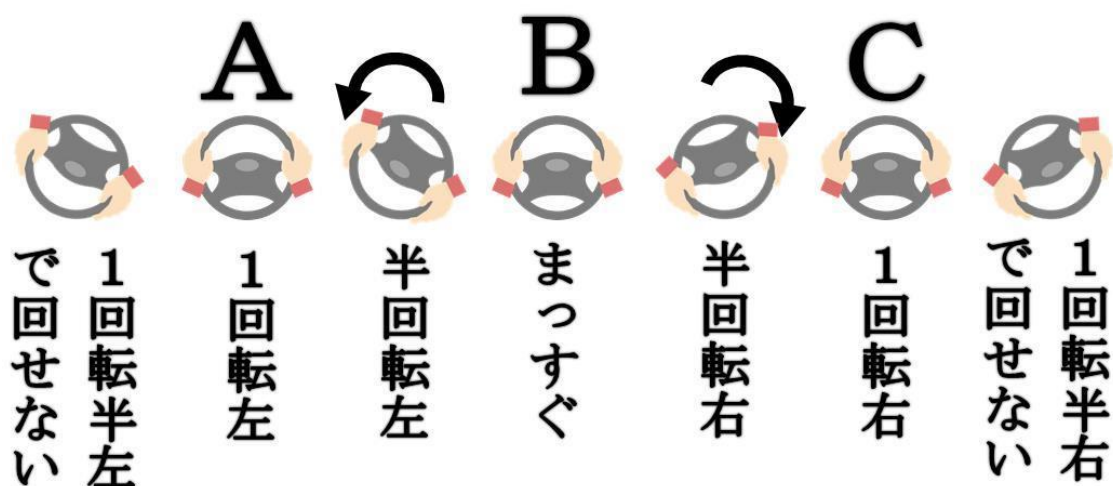
後退する時のハンドル操作を掴むコツは、車体の後ろの部分意識してハンドルを操作すると分かりやすいです。下の図のようにハンドルを右に回して後退すると車体の後ろの部分も右側に近づいていきます。すなわち、ハンドルの回す方向と車体の後ろの部分の進む方向が同じ方向なのでそこが覚えやすいポイントになります。後退する時に途中でハンドル操作に迷った時は車体の後ろの部分を決めてどっちに進ませたいかを考えるとハンドル操作が判断しやすくなります。



(2) ハンドルの回転数

車庫入れを行っていると途中でハンドルの向きが分からなくなるというのは車庫入れあるあるです。そうになってしまう方はハンドルの回せる回数や前輪の動き方をよく理解していない場合が多いです。まずはハンドルがまっすぐの状態から何回転、回せるのか考えてみましょう。車種によって差がありますが、一般的な普通乗用車の場合、ハンド

ルの回せる量は左右に約 1 回転半になります。下の図に注目してください。



例えば、ハンドルをまっすぐの状態から右に回すと 1 回転回り、さらに右に半回転、回すと全開となり、それ以上は回せなくなります。左に回しても同じように 1 回転半で全開になります。ポイントは A、B、C の状態ですが、ハンドルが A（左に 1 回転）、B（まっすぐ）、C（右に 1 回転）の状態は手元のハンドル自体の向きは全く同じ見た目になるので、ハンドルを見ただけではハンドルがまっすぐになっているのか、どちらかに 1 回転、回っている状態なのかは判断ができませんよね。これがハンドルの向きが途中で分からなくなってしまう原因なのです。

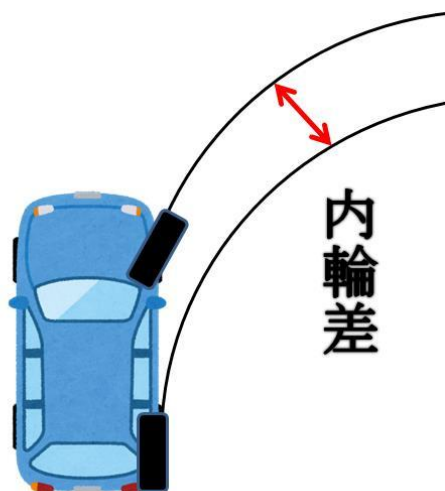
ではベテランドライバーは、どうやってハンドルの向きを見極めているのでしょうか。いくつか方法がありますが、おすすめの方法は車を少し動かして車の動きを観察することです。例えば、下の図に注目してください。ハンドルがまっすぐになっているように見えますが、少し後ろにバックしてみるとこのように車が動きました。この場合、ハンドルはどうなっていると思いますか？1 つ前の「前輪の向きと動き方」の部分でも説明しましたが、後退する時のハンドル操作は車の後ろの部分が進む方向とハンドルを操作する方向が同じになると言いました。これを利用して、車を少し後ろに動かして車の後ろの部分が左右どちらに動いているかを確認するのがコツです。今回は運転席から見て車の後ろの部分が右側に進んでいますので、ハンドルも右に回っていることになります。先程の A B C で言いますと、C（1 回転右）の状態になっています。



ハンドルの向きはどうなっている？

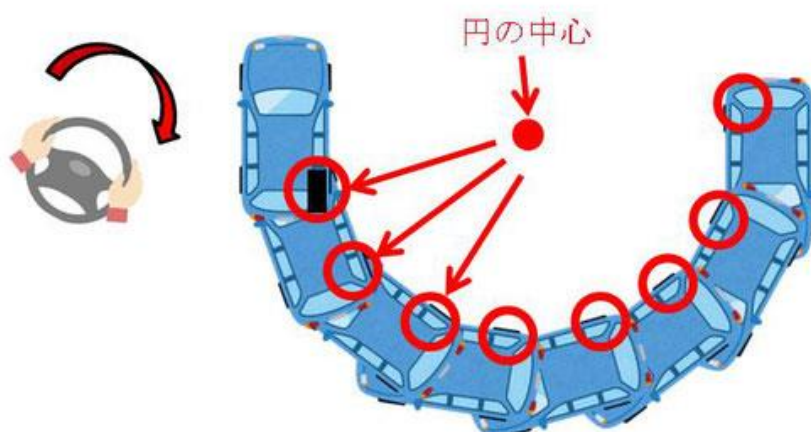
最初は前輪がどちらに向いているのかがなかなか掴めないかもしれませんが、練習を積み重ねていくうちに車の動き方やハンドルの回せる量が分かってきて考えなくても直感的にハンドルを回せるようになります。具体的な練習方法については第三章で紹介していきます。

(3) 内輪差と外輪差

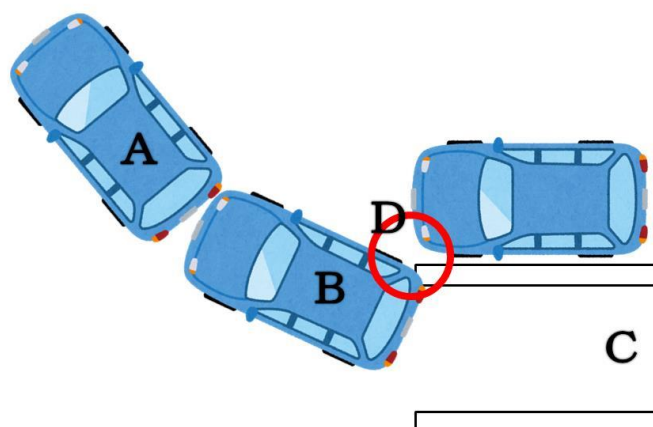


「内輪差」という言葉は自動車学校で習った記憶がある方も多いと思います。車が左や右に曲がる時に生じる内側の前輪と後輪の通行位置の差を内輪差と言います。あなたも車でお店などから道路に出る時に縁石に後輪が上がってしまった経験が何度かあると思います。この内輪差は前進だけでなく後退する時にも関係してきます。

下の図はハンドルを右に回して後退していますが、ハンドルを回して後退すると大きな円を描いて車は回転していきます。その時、その円の中心から一番近くなるのは右の後輪になるのが特徴です。言うまでもありませんが、左にハンドルを回して後退すれば左の後輪が円の中心から一番近くなります。



この内輪差の特徴を理解しているかどうかがとても重要で、特に車と車の狭い駐車スペースに停める時などに役に立つ知識となります。例えば下の図のようにAの位置からCの位置に停める時はDの部分が最も近づきます。このDの部分がぶつからないかどうかをドアミラーや目視で確認しながらハンドルを微調整するのがポイントになります。

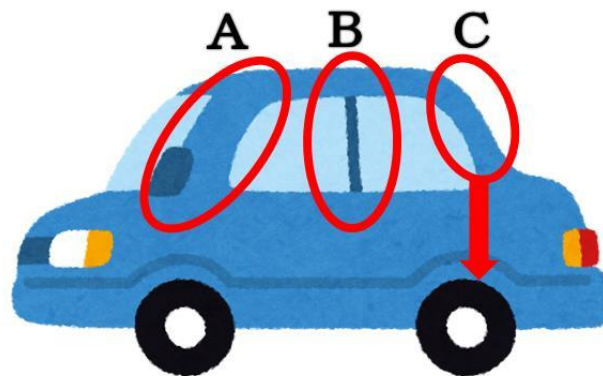


また、Bの位置まで近づいた時はぶつかる部分はすでに通過していることになるので、ハンドルを全開に右に回しても隣の車にぶつかることはありません。後退する時はこのDの部分を軸に車が回転して動いていく特徴があり、この動きをちゃんと理解していないと車庫入れの時になかなか思い切ってハンドルが回せず大回りになりやすいです。

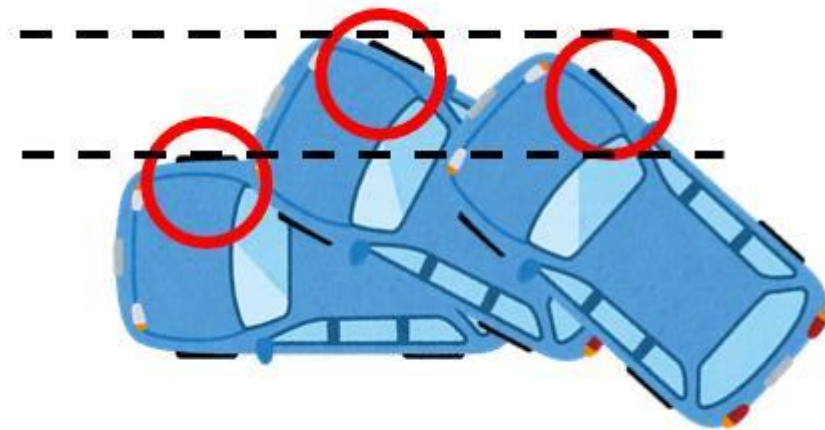
では運転席から見た場合、後輪はどこに付いているのでしょうか。もちろん、運転席から後輪を直接見ることはできません。車種によって後輪の付いている場所は変わってきますが、軽自動車（N-BOX やタント、ワゴン R など）やコンパクトカー（ヤリスやノート、フィットなど）は車体の一番後ろに後輪が付いているのが特徴です。



その他の車は後部座席の真下に後輪が付いている車が多いですが、実際に車の外から後輪を見てその目印を覚えておくのも良い方法です。よくある目印としてはピラー（柱）になります。ピラーという言葉は初めて知ったという方もいるかもしれませんが、車の屋根を支える柱になります。下の図のようにピラーは前からAピラー、Bピラー、Cピラー、Dピラーと呼ばれますが、後輪の位置はCピラーの真下になるので運転席からCピラーを意識すると後輪の位置がイメージしやすいです。



次は「外輪差」になります。内輪差は自動車学校で習った覚えがあると思いますが、外輪差はあまり聞き慣れない言葉ですよね。実は自動車学校の教習でも「方向変換」という課題の時にしか説明する機会はないので、ほとんど印象に残っていないと思います。外輪差はハンドルを回して後退した時に前輪が外側にはみ出そうとする現象で、普通乗用車の場合はハンドルを全部回すと約 1m の外輪差になります。下の図はハンドルを左に回してバックしている状態です。



この外輪差に関して特に危ない場面としては前向き駐車になります。みなさんもコンビニの駐車場などで「前向き駐車してください」と看板が掲げられているのを見たことがあると思います。駐車場のすぐ隣が民家だったりすると排気ガスや騒音などが近所の迷

惑に繋がるため前向き駐車が指定されている場合が多いです。この前向き駐車は停める時は比較的楽に停められるのですが、バックで出る時に外輪差に注意が必要です。バックし始めてすぐにハンドルを回し始めてしまうとこの外輪差によって隣の車にぶつかってしまうので、最初はハンドルを回さずに車体をまっすぐバックさせて駐車スペースから完全に出してからハンドルをするようにしましょう。詳しくは第六章の部分を参考にしてください。

(4) 後退時の安全確認



後退時の安全確認には「目視」「バックミラー」「バックモニター」の三種類の確認方法があります。第一章でも四輪車の構造的な問題点を述べましたが、運転席が前向きで前寄りに付いているのでとにかく後方が見にくいです。後退時の安全確認で一番に意識して欲しいのは、常にこの三種類の確認方法をまんべんなく行って欲しいということです。その理由としてはこの三種類の確認方法はそれぞれに弱点があり、後方を完全に把握できる方法がないのです。

それではこの三つの確認方法の特徴を見ていきましょう。まずは「目視」になります。目視とは後方を振り返り直接自分の目で確認することですが、その長所は見える範囲の広さと距離感の掴みやすさになります。特に車内から真後ろを振り返るとおおよそ180°は軽く見渡せるので、周りの車や歩行者、自転車などがいる時に気づきやすいです。特に後退を始める前にまずは最初に目視をして周囲の安全を確認してからバックするのが良いです。また、目視は距離感も掴みやすいのも特徴で、車庫入れをしている時に自分の車がどのくらいの位置にいたかが分かりやすいです。

反対に目視の短所としては車体の横幅の感覚が掴みにくいことです。例えば、道幅の狭い道路をバックで走行しなければならない場面や車と車の間に車庫入れをしなければならない場面では、目視だと車の横側がどのくらい近づいているかのはっきり掴めません。



次は「バックミラー」になります。バックミラーには主にルームミラーとドアミラーがありますが、その長所としては細かい部分が確認しやすいことです。特に左右のドアミラーに車の横側が写るので車幅の感覚が掴みやすいのが大きな特徴です。また、後ろを振り向かなくても後方が確認できるので運転姿勢が楽なのも長所になります。

反対にバックミラーの短所としてはミラーに映っている範囲が極端に狭いことです。映っている範囲が狭いため、車の周囲にいる車や歩行者などを見落としやすいので注意が必要です。また、バックミラーは距離感も掴みにくいのも大きな弱点です。後輪を当てる輪止めがないような駐車場ではバックミラーだけで駐車するのはとても危険です。

最後は「バックモニター」になります。交通事故総合分析センター（ITARDA）によると、バックモニター装着率は年々上昇し、2016年時点で約4割のクルマが装着しているというデータがあります。このバックモニターが登場してから格段に後退操作が安全になって車庫入れもやりやすくなりました。

バックモニターの長所としては車体で見えない部分（死角）が見えるようになることです。車体の後ろのバンパーもはっきり見えるのでバックする時にあとどれくらい下がるのかははっきりと確認できます。また、バックセンサーが搭載されている車も増えてきているのでより安全になってきています。

反対にバックモニターの短所としてはバックミラーと同じで映っている範囲が極端に狭いことです。車の真後ろは確認することができますが、横から来る車や自転車、歩行者などは映らないので飛び出してきた場合に発見が遅れやすいのが特徴です。

このように「目視」、「バックミラー」、「バックモニター」にはそれぞれに長所と短所がありますので、それらの特徴をよく理解して使い分けるのがテクニックになります。特に同じ場所をずっと見続けることが一番危険なので、監視カメラのごとく常に見る場所を変えることが大切です。

第三章 効果的な練習方法



第二章では後退操作のメカニズムについて説明しましたが、ここではその後退操作の練習方法について紹介していきます。何にでも言えることですが、難しいことからいきなり始めてしまうとすぐに嫌気がさしてしまったり投げ出してしまうことがありますよね。車庫入れも同じでいきなり見様見真似でやってしまうとあまりの難しさにやる気もなくなってしまいます。

車庫入れ上達のコツは簡単なことから始めること。私自身も割とせっちな方なので何事においても最短時間で終わらせたいという性分なのですが、「急がば回れ」ということわざがあるように時間を掛けてじっくりと練習を積み重ねていった方が最終的にはそれが一番早く上達したりします。それでは実際にどのような練習をすれば良いのか見ていきましょう。

(1) ハンドルをまっすぐの状態に戻せるように

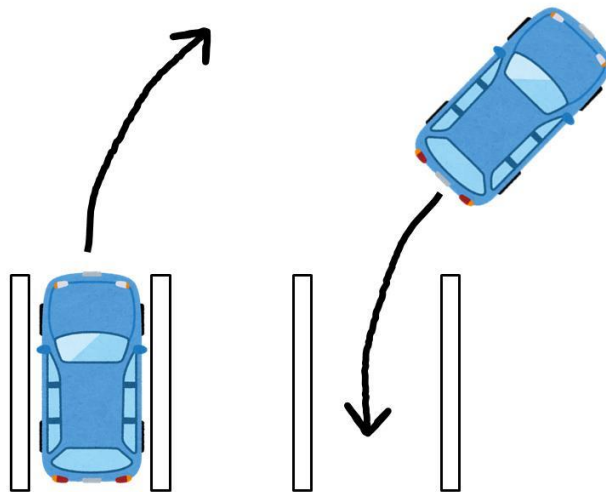


まずは初歩的な練習から始めてみましょう。第二章の(2)ハンドルの回転数の部分でもハンドルの回数について説明しましたが、車庫入れの途中でハンドルの向きが分からなくなりまっすぐに戻せなくなってしまうことがよくあります。ハンドルの向きを掴む練習としておすすめなのは、車を止めた状態のまま一旦ハンドルを左右どちらかに全開に回して、それをまっすぐの状態に戻す練習です。

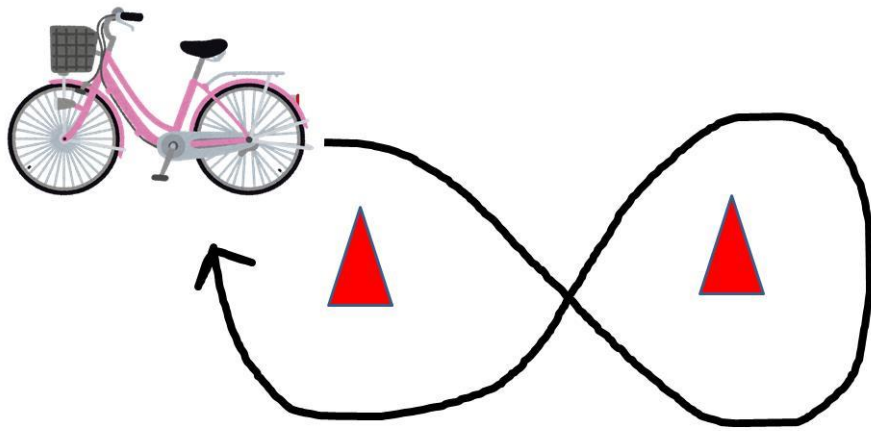
ハンドルをちゃんとまっすぐの状態に戻せているかどうかは車を動かして確認してみてください。最初はハンドルを見ながら行って、だんだんと慣れてきたら目をつぶって手の感覚だけでやってみると効果的です。この練習を繰り返していくと手の動きだけで前輪の向きが分かるようになって、手元を見なくてもハンドルをまっすぐに戻せるようになります。この練習を行う上で注意して欲しいことは、この車を止めた状態のままハンドルを操作することは車にはあまり良くないということです。止まったままハンドルを操作することを「すえ切り」と言いますが、タイヤが摩耗してタイヤの寿命が短くなると言われていますのでやり過ぎには注意してください。

(2) 狙った場所にバックできるように

次はハンドルを回してバックした時にどのように車が動くのを掴む練習になります。おすすめの練習方法は下の図のように駐車場に停まっている車を一旦右か左へ斜めに出して、そこから後退させて元の駐車スペースに戻す練習です。後退する時にハンドルを回すとどのように車が動くのかを確かめながら練習してみましょう。



最初はバックして元の駐車スペースに戻す時も綺麗に駐車スペースの中に納まらなくても大丈夫です。段々と慣れてきてある程度コントロールできるようになってきたら駐車スペースに収まるように狙ってみてください。それから、この練習は直接目視とドアミラーの両方で出来るように練習してみてください。ドアミラーが見にくい時はドアミラーの角度を少しだけ下にさげると見やすくなります。マイカーを持っていない方や練習する時間がなかなか取れないという方は、自転車やスマホのゲームがおすすめです。自転車で後退操作を練習する時は下の図のように8の字を描くようにバックさせながら練習をすると後退の動き方がよく分かります。



また、スマホのゲームは特に「駐車場の王」（下の画像）というアプリが車庫入れの練習に最適です。Android と iPhone、両方とも無料でダウンロードできます。このゲームはハンドル操作と動きがとてもリアルなのが特徴です。ゲームの難易度はかなり高くて難しいですが、遊びながら気軽な気持ちでやってみてください。



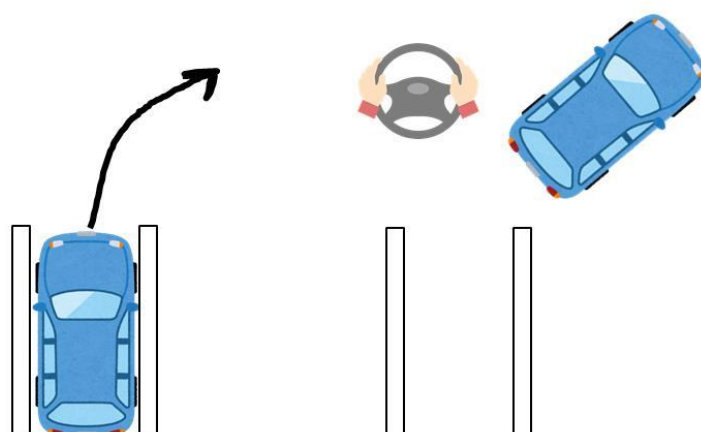
それから、パソコンをお持ちの方におすすめのゲームが「3D Parking Simulator」（下の画像）になります。今まで試してきた車庫入れゲームの中では、これが一番実際の車庫入れの感覚と近いと思います。パソコンのキーボードの矢印キーの上下で前進と後退を操作し、左右でハンドルを操作します。視点もマウスで変えられるのですが、操作がなかなか難しいので実際の車庫入れの方が案外簡単に感じるかもしれません。普段、仕事をしている方や子育てをしている方だとなかなか車庫入れの練習をする時間を作る

のが難しいと思いますが、こういったゲームを活用するとちょっとした隙間時間に練習ができるのでおすすめです。



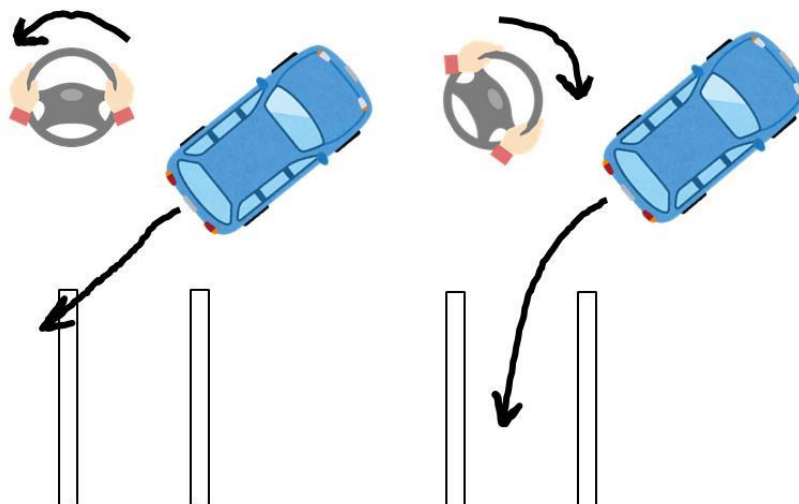
それでは、実際のハンドル操作を右バックで見ていきましょう。最初は下の図のように駐車スペースから右斜めに車を前進させます。角度は斜め 45° くらいで、前に出したら回したハンドルを一度まっすぐに戻しておいてください。

ハンドルをまっすぐに戻す



そこから、元の駐車スペースに戻すのですが、下の図のようにハンドル操作は右に回していくと駐車スペースに向かって車が曲がっていきます。反対に右に回したハンドルを途中で左に戻していくと車の曲がり方が弱くなって、まっすぐバックしていく動きに変化していきます。車の動きを見ながら途中でハンドルを右に回したり、左に回したりし

て車の動きをコントロールするのですが、ポイントはハンドル操作を細かく微調整することです。



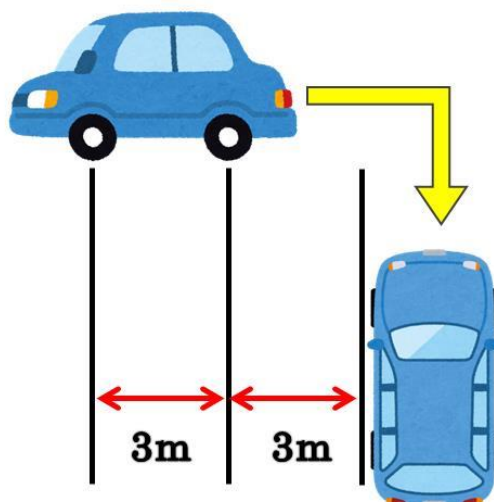
車をコントロールする時に、ハンドルを一度にたくさん回してしまうと一気に動きが変わってしまうので、コントロールが難しくなります。例えば、料理で醤油や塩コショウなどの調味料を足す時に味を確認しながら少しずつ足していくと思いますが、その感覚に近いと思います。この練習を何度も繰り返していくと直感的にハンドル操作ができるようになって、車庫入れを行う時にハンドルを回す方向を迷わなくなります。とても地味な練習ですが、ある程度思い通りに動かせるようになるまで繰り返し練習してみてください。

（３）直角バックの曲がり具合を掴めるように

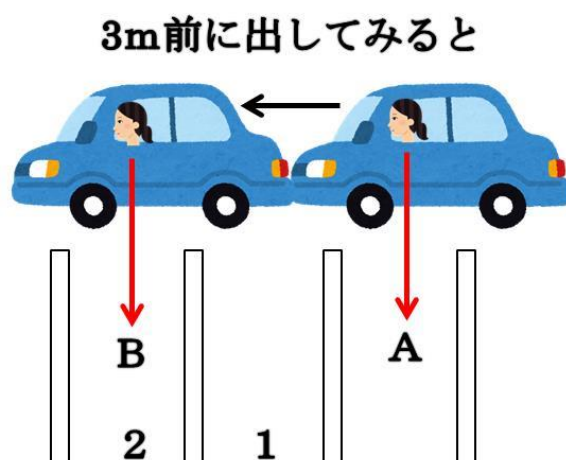
次はバック時の曲がり具合を掴む練習です。ハンドルを全開に回してバックした時に、どのくらいの感じで車が曲がっていくのかが掴めているかどうかは車庫入れにはとても重要になります。この曲がり具合が掴めてくると車庫入れの時にどのくらいのタイミングでハンドルを回し始めれば間に合うのか、最初にどのくらい前に車を出してから車庫入れをすればいいのかといった感覚が身に付いてきます。

まずは下の図のようにハンドルを全開に回して車を 90° 向きを変えるにはどのくらいの距離を必要とするかを見てみましょう。車の大きさによってこの距離は変わってくるのですが、一般的な普通乗用車の場合は約 3m になります。この 3m という距離はなか

なかイメージしにくいと思いますが、一つの目安として車の前輪と後輪の距離（ホイールベース）が約 3m になります。



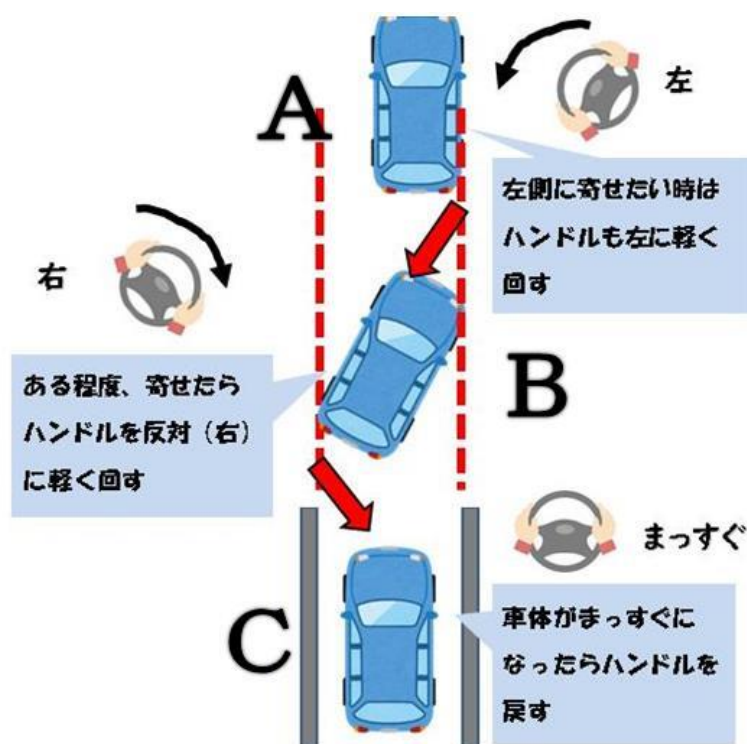
次は下の図のように駐車したい駐車スペース（A の位置）に運転席を合わせて、そこから約 3m 前に進むとどのくらいの位置になるか見てみましょう。下の図を見ると駐車したい駐車スペースの 2 つ隣の駐車スペース（B の位置）の真ん中辺りに運転席が合っているのが分かりますよね。実はこの方法は昔からある裏技で駐車したい駐車スペース（A の位置）から 2 つ隣の駐車スペース（B の位置）の真ん中辺りに運転席を合わせて、その位置から一気にハンドルを全開に回すと駐車することができるという駐車方法になります。



この駐車方法を直角バックと言いますが、この直角バックを繰り返し練習することで車庫入れの時にどのくらいのタイミングでハンドルを回し始めれば間に合うのか、最初にどのくらい前に車を出してから車庫入れをすればいいのかといった感覚が掴めてきます。

(4) 幅寄せができるように

最後は「幅寄せ」の練習になります。自動車学校で免許を取る時にも幅寄せを練習しますので覚えている方もいるかもしれません。車庫入れというのは一回のバックで綺麗に真ん中に収めるのはなかなか難しいです。幅寄せというのは車庫入れした時に駐車スペースに対して車が右や左に寄ってしまった場合に、一度前に車を出して真ん中に入れ直す作業になります。



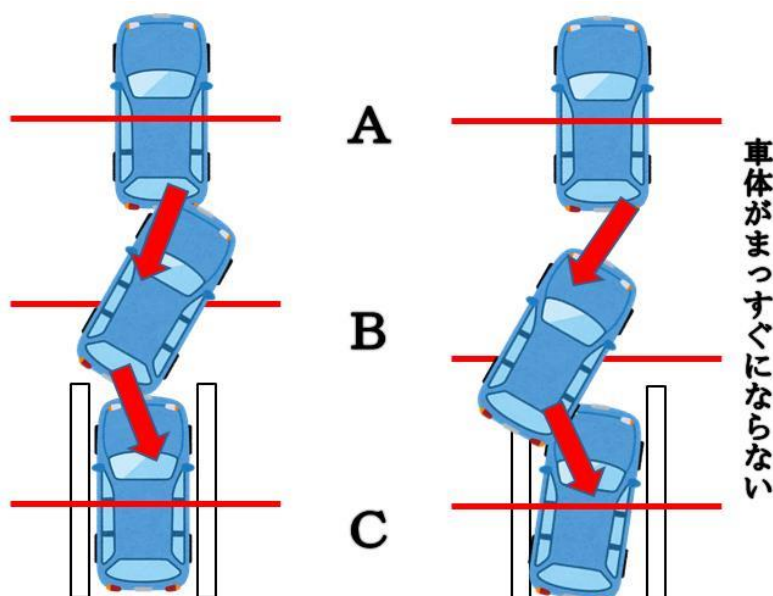
それでは、実際に幅寄せの方法を上図を見ていきましょう。上の図では駐車スペースに対して右側に寄ってしまっている車をバックして左側に幅寄せをしようとしている状況になります。Aの位置からまずどちらにハンドルを回してバックし始めるのか。覚えやすいのは「車を寄せたい方向に回す」ということです。今回は左側に寄せたい場面なので、Aの位置からハンドルを左に回してバックしていきます。幅寄せのハンドル操

作は、第二章の（１）前輪の向きと動き方の部分でも説明しましたが、車の後ろの部分意識してハンドルを操作するのがコツです。

Bの位置までバックすると車体が斜めになって車体の後ろの部分だけ左側に寄せているのが分かると思います。Bの位置からCの位置にバックする時はこの斜めになった車体を駐車スペースに対してまっすぐにしていく作業になります。ハンドルの回す方向はAの位置とは反対方向（右）に回していきますが、この時に運転席から真正面の景色を見ると車体がまっすぐになっていく様子がよく分かります。

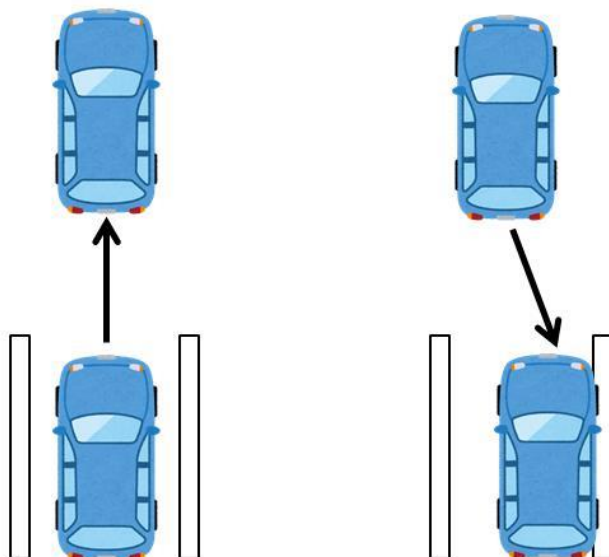
また、幅寄せのポイントはハンドルを軽く回すことです。ハンドルを必要以上にたくさん回してしまうと途中でハンドルの向きを見失って混乱しやすくなります。目安としては手を持ち替えずに両手だけで回せる範囲でハンドル操作をするとハンドルの向きが掴みやすくなります。

もう一つのポイントは下の図のようにAの位置からBの位置までの距離とBの位置からCの位置の距離を同じ距離にすることです。特にAからBの位置を欲張って寄せ過ぎてしまうとBからCの位置に行く時に距離が足りずに車体をまっすぐに出来ずに斜めになってしまいます。



この幅寄せのおすすめの練習方法は下の図のように一度駐車スペースからまっすぐ前を出して、左右どちらかに幅寄せする練習です。幅寄せを練習する時のポイントはドアミラーを使うことです。1回の幅寄せで50cmくらいしか横移動しないので直接目視ではその変化が分かりづらいです。それから、ドアミラーは1つのドアミラーだけを見続

けるのではなく左右をまんべんなく見るとどちらに車が寄っているかが分かりやすいです。幅寄せは車庫入れの時に頻繁に使うテクニックになりますので、駐車スペースの真ん中にまっすぐに収められるように繰り返し練習をしてみてください。



第四章 車庫入れの練習をする上での注意点



車庫入れの練習をする上で気を付けて頂きたいことが何点かあります。私は出張型のペーパードライバー講習をやり始めてから約2年半になりますが、今までにスーパーなどで車庫入れの練習をしている時にそのお店の店員さんに注意されてしまったり、車と車の間に車庫入れをしている時に車に乗っているドライバーさんに怒られてしまったりと苦い体験を数多くしてきました。車庫入れの練習にはトラブルが憑き物です。車庫入れの練習に夢中になっていると、周りの車に迷惑になっていることに気付かなかつたりしますので注意しましょう。

(1) 車庫入れの練習をする場所



まずは練習する場所になります。広い公園などが近くにあれば理想的なのですが、そういった恵まれた環境に住んでいる方は少ないと思います。従って、スーパーマーケットやホームセンターなどの駐車場で練習をすることは避けられないと思いますが、できる限り広くて車が少ない駐車場を選びようにしてください。可能であれば屋上の駐車場があるような場所が理想的です。それから、練習する時間にも気を付けてください。同じ場所で何時間も練習し続けると必ず目立ってしまいますので、適度に駐車する場所やお店を変えるようにしましょう。

次に車の隣や車と車の間に駐車を練習する場合です。駐車場に停まっている車はやはり他人の車になりますので、練習中にぶつけてしまった時には大変なことになってしまいます。従って、ある程度の技量が身に付くまではまずは周りに車が停まっていない場所から始めていくのが無難です。それから、車の隣に停める時はその車に人が乗っていないかよく確認してください。これも私の体験ですが、車庫入れに手こずっていると練習していることが相手にバレてしまって注意されてしまうことがありますので気を付けてください。

(2) 輪止めについて



「輪止め」と聞いてピンとこない人もいますが、駐車場に設置されているタイヤを止めるためのストッパーになります。第一章の(1)四輪車の構造的な問題点の部分でも説明しましたが、四輪車はとにかく後ろが見にくく感覚が掴みにくいのが特徴です。そのため車庫入れの時にも車の後ろをぶつけしまうことは日常茶飯事です。恥ずかしながら私自身も免許取りたての時に何度もぶつけてしまった経験があります。

輪止めについてまず気をつけて欲しいことは、駐車する場所に輪止めがあるかないかを確認してから車庫入れに取り掛かって欲しいということです。特に大型のショッピングセンターなどは駐車場所も多いため、経費削減を理由に輪止めの設置を最小限にしている所が多く見られます。また、輪止めが設置されている場合でもその輪止めには隙間があるので、駐車スペースに対して大幅にズレてしまった場合はその輪止めをスルーしてしまう危険があります。

次は輪止めが設置されていない場合です。バックモニターが付いている車の場合は後ろに下がる距離ははっきりと確認できますが、バックモニターが付いていない車の場合には工夫が必要です。その工夫としては周りに停まっている車を利用することです。隣に停まっている車の運転席と自分の車の運転席を揃えるとだいたい同じように停めることができます。では周りに車がない場合はどのように駐車すれば良いか。こういう場合は逆転の発想です。後ろが見えにくいのなら見やすい前で合わせるのがテクニックです。前寄りに合わせれば後ろには絶対に届きませんので、前が駐車スペースからはみ出さない程度を狙うのがコツです。

(3) 練習相手は選んだ方がよい



いざ車庫入れの練習をしようとしても一人で練習するのはなかなか怖いと思います。そうすると家族や友達など身近な人に練習を付き合ってもらうことになると思いますが、その時は練習相手をよく考えて選びましょう。私のスクールのお客様からも「車庫入れの練習中に旦那と喧嘩なった」というのはよく聞く話です。お互いの関係性が近いとどうしても遠慮がなくなり感情のまま言ってしまうのでどうしても喧嘩になったり、陰湿な雰囲気になりがちです。特に夫婦や親子、兄弟、姉妹などの家族は上手くいかないことが多いので、練習相手の選択肢がある時は避けた方が無難だと思います。友達や勤め先の同僚、勤め先の先輩などその関係性に少し距離がある人がちょうど良いです。

また、どうしても距離感が近い家族しか練習に付き合ってもらえる人が身近にいないという場合は、教えてくれるその人にレッスン料として報酬を支払うのも良い方法です。なぜ報酬を支払うかというと、まず教える立場からすると報酬を貰っているということで、車庫入れができるようにちゃんと教えなければならないという責任感が生まれます。反対に教えてもらう立場からすると、相手に報酬を支払っているのでお客様の立場として強気に意見が言えるようになるのです。もし報酬を支払うのに抵抗があるようであれば、ご飯や物をおごってあげたりするのも良い方法だと思います。家族との喧嘩がきっかけで車を運転するのを辞めたということにならないように練習相手は慎重に選びましょう。

(4) 車庫入れはすぐに上達はしない



「ローマは一日にして成らず」ということわざがありますが、車庫入れも同じです。最初の「はじめに」の部分でも説明しましたが、車庫入れには「知識」と「経験」が必要です。「知識」を身に付けるのはそう時間もかかりませんが、「経験」を積み重ねるのにはどうしても多くの時間が必要になってきます。車庫入れの練習というのはダイエットと似ている気がします。ダイエットの方法が無数にあるように車庫入れの方法も人によって全くやり方が違ったりします。やり方がたくさんあると自分に合ったものがどれなのか迷ってしまい、車庫入れの練習自体が面倒くさくなってきます。

また、ダイエットも車庫入れの練習も一生懸命に頑張ってもその成果はすぐには表れないので、どうしても途中で心が折れてしまいがちだと思います。車庫入れの練習を継続させるコツは簡単なことから始めること。第三章（効果的な練習方法）で紹介しましたが、いきなり難しいことはやらずに階段を一步一步登っていくように出来ることから手を付けてまずは自信を付けていきましょう。

第五章 車庫入れの手順



よくある話ですが、車庫入れが上手なベテランドライバーが車庫入れを他人に教えようとするとうまく教えられることがあります。なぜそうなってしまうかというと、多くのベテランドライバーが車庫入れを感覚でやっているの、それを事細かく言葉で伝えることが難しいからです。例えば、料理のレシピになると材料の種類や調味料の分量、調理時間などを数字や文章などで具体的に伝えることができますが、そう簡単にはいかないのが車庫入れの厄介な所です。とはいえ、車庫入れ初心者の方がいきなり感覚だけで車庫入れを練習するのはやはり現実的ではありません。

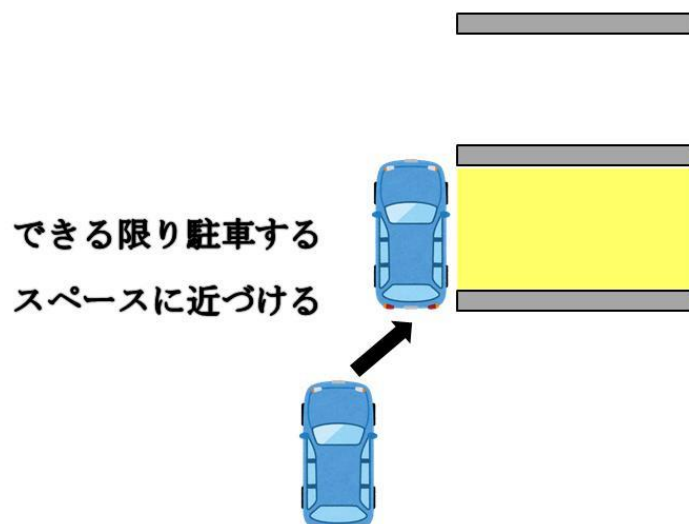
最初のうちはハンドルの回すタイミングや回す量などをある程度目印として覚えることがおすすめです。もちろん、駐車する場所の立地条件や車の大きさなどによって通用しない場合もありますので、ある程度の目安にしてください。また、この手順を繰り返し練習していくと「ここはもう少しこうした方が上手くいくな」と気づく部分が出てくると思います。そういった部分をあなたなりにどんどんアレンジして行って、自分だけの車庫入れのルーティンを完成させてください。それでは、車庫入れの手順を見ていきましょう。YouTube 動画のリンクも貼り付けてありますので参考にしてください。

【教習所の元指導員が教えます！誰でもできる車庫入れテクニック！】

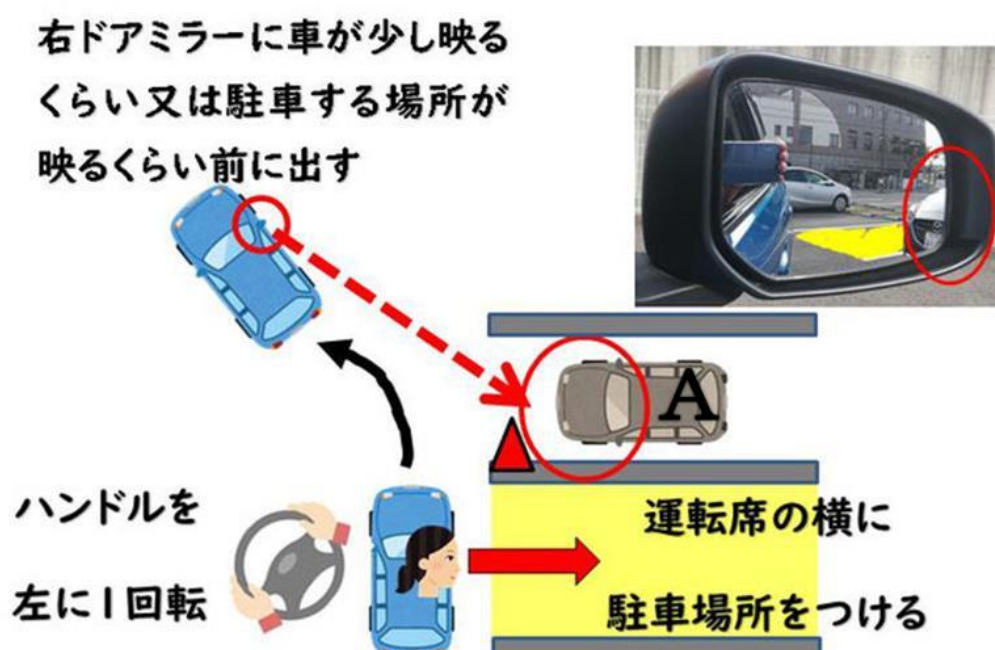
<https://youtu.be/M4ALCmafoAE>

まずは下の図のように駐車したい場所の真横に車を移動させることから始まります。この時のポイントは、駐車したい場所にできる限り車体を近づけることです。なぜ近づけ

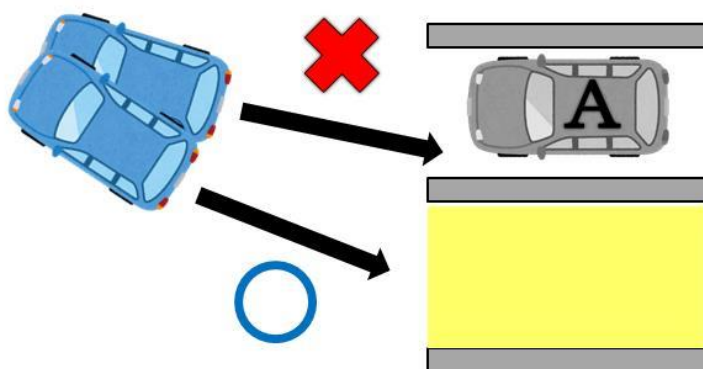
て欲しいかという、その後車を斜めに振ってバックしやすくするためです。大抵の駐車場はその通路が狭いので最初のポジション取りもとても重要です。



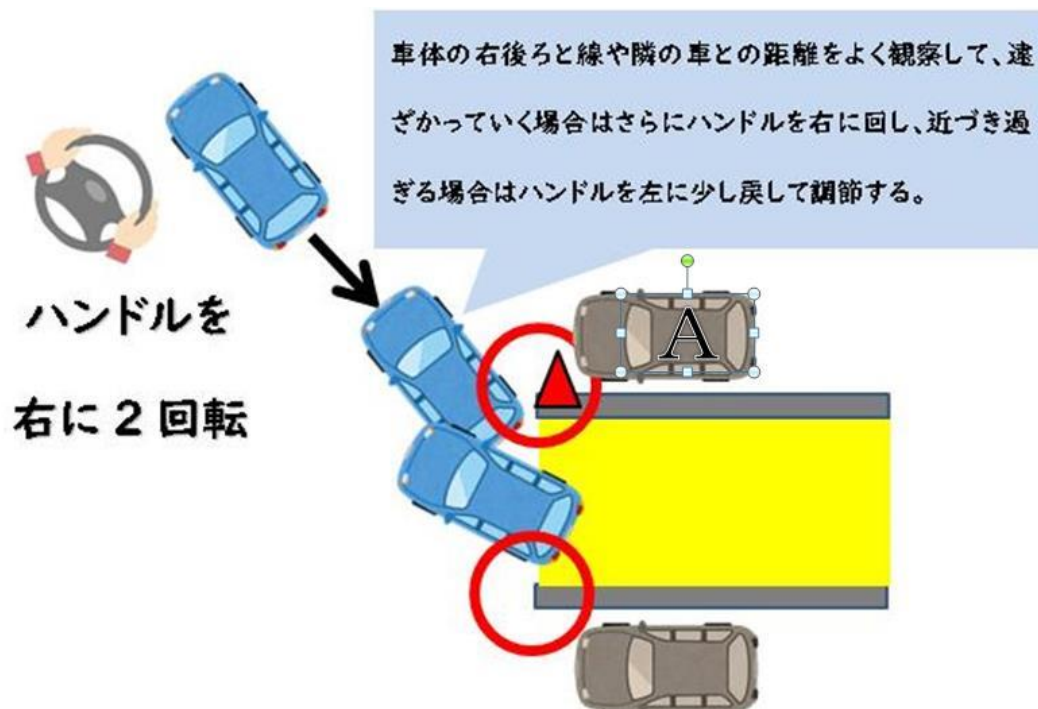
そして、下の図のように運転席の真横に駐車したい場所が来たタイミングで入れやすいように車体を左側に斜めに傾けていきます。この時のハンドルを回す量は、左にハンドルを一回転くらい回すのが目安になります。車を動かしながらハンドル操作を行うのが理想ですが、手順が覚えきれていない内は止まったままハンドル操作をしても構いません。



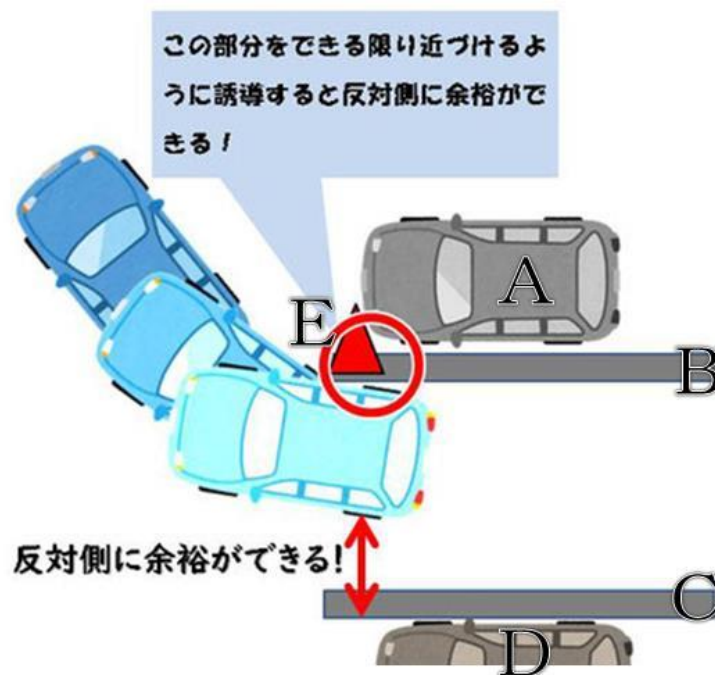
次に車体を左側に斜めにする角度は、下の図のように車の後ろが駐車したい場所の入り口に向かうような角度にするのがポイントです。この時に気を付けて欲しいのは角度の付け過ぎです。図のように角度を付け過ぎてしまうとバックし始めた時点でAの車とぶつかってしまうので駐車がやりにくくなります。



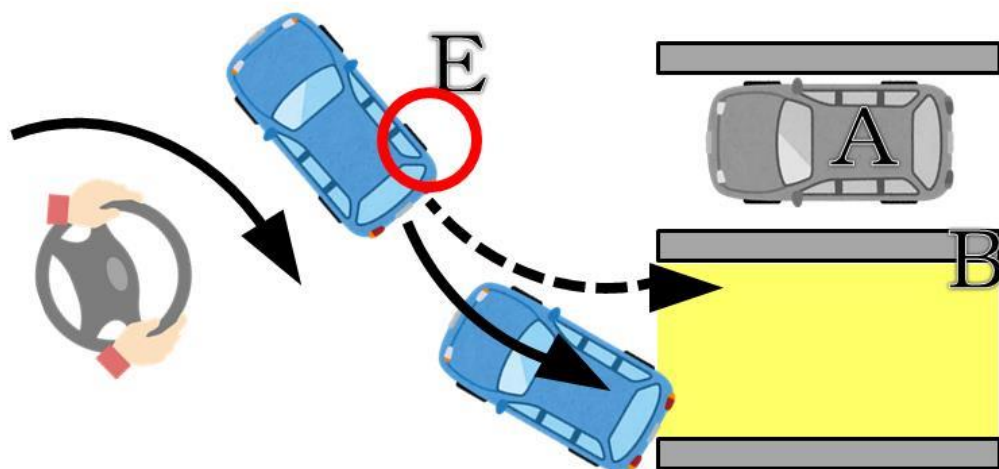
この角度の目安としては、右のドアミラーの見え方を利用すると判断がしやすいです。その目安としては右のドアミラーにAの車が少し映り込むくらい又は駐車したい場所が全体的に映り込むくらいがベストです。



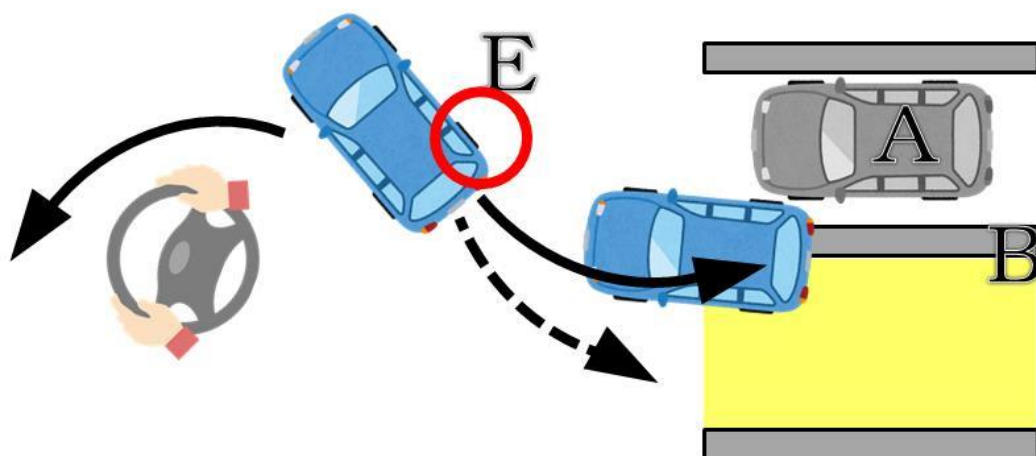
その位置から上の図のようにハンドルを右に二回転くらい回してバックしていきます。このハンドル操作は最初に左にハンドルを一回転、回しているので、実質はハンドルを右に一回転回してバックしている状態からバックしていることになります。従って、その状態でバックしていくとAの車に近づくように車が動いていく状態になります。また、ボクシーやステップワゴンなどの車体が長い車の場合は小回りが利かないので、ハンドルを右に二回転ではなく右に全開に回すとちょうど良いと思います。



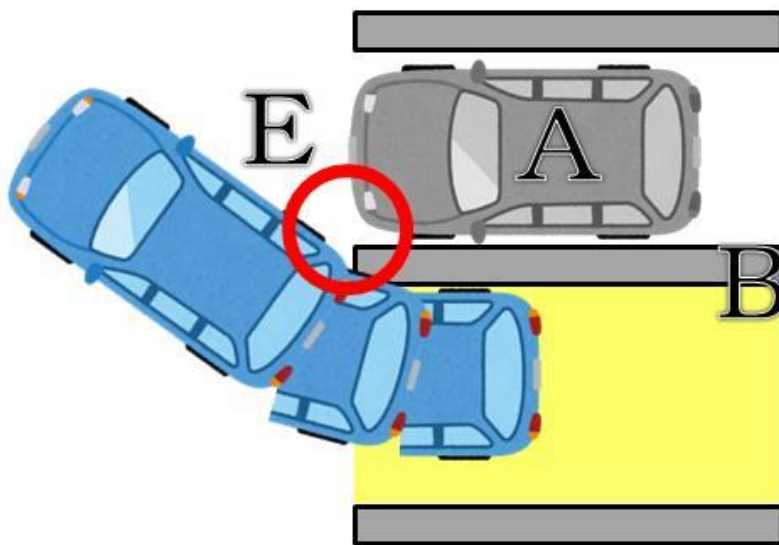
ここからバックで車庫入れをしますが、ポイントはどこを狙ってバックさせるかということです。上の図のように狙う場所は車体のEの部分をA車又はBの線にできる限り近づけるのがコツになります。A車やBの線に近づけると反対側のCの線を越えたり、Dの車にぶつかることが絶対にはないのです。大抵の駐車場の駐車スペースはかなり狭く車体1台分と少しの余裕しかありません。逆に考えればA車やBの線から少しでも離れてしまうと、反対側のDの車にぶつかり危険が出てくるのです。



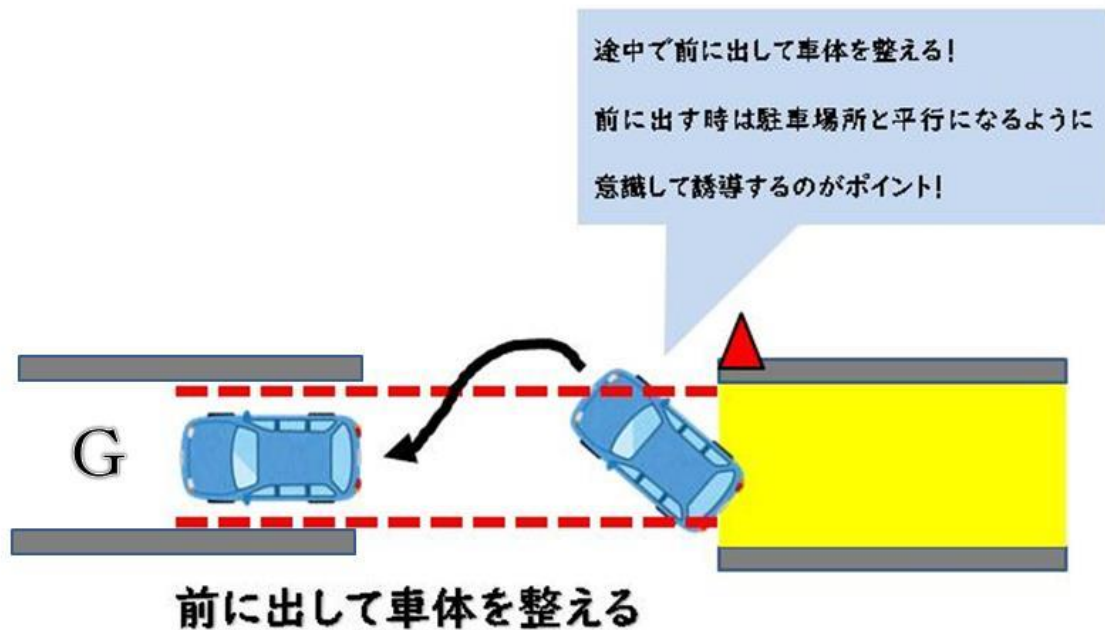
次にハンドルを右に二回転くらい回してバックし始めたら、車体のEの部分とA車やBの線との距離をよく観察して車がどういう軌跡で動いているのかを見極めるのがコツです。この時、上の図のようにA車やBの線から遠ざかっていく場合は、ハンドルを少し右に回すと車がより曲がりA車に近づいていく動きに変化します。反対に下の図のように近づき過ぎて、Bの線を踏みそうな場合やA車にぶつかりそうな場合はハンドルを左に少し回すと車の曲がり具合が弱くなってA車にあまり近づかないような動きに変化します。このように車の動きを見ながら途中でハンドルを微調節しながらコントロールするのがポイントです。



また、もう一つの覚えておいて欲しいテクニックとして、下の図のように車体のEの部分とA車の左先端が横並びになった時はハンドルを全部回してもA車にはぶつからない動きをするのが特徴です。なぜぶつからないのか不思議に感じるとは思いますが、第二章の（3）内輪差と外輪差で説明したように車が後退する時は後輪を軸となって車体が回転するのがその理由です。このタイミングでハンドルを一気に右に回して向きを変えるのがポイントです。



それから、後退操作にまだ慣れていない頃は、一発で綺麗に真ん中に入れることは諦めた方が無難です。なぜかという、車庫入れ初心者の方が一発で綺麗に真ん中に入れようとする、車庫入れに時間がかかり過ぎて周りの車を待たせることになりやすいのです。ですので、まずは駐車スペースの中にはみ出すことなく収めることだけを目標にしてください。駐車スペースに収めた時に右や左に車が寄っていても、車体が斜めになっていても全く問題ありません。車を駐車スペースに収めてしまえば、ひとまず周りの車には迷惑はかからないので、その後自分のペースで幅寄せをして修正すればOKです。



駐車スペースに収めた後は上の図のように一旦前を出して車体を綺麗に整えていきます。前に出していく時のコツは、駐車したい場所と車体が平行になるように移動させることです。この時に目安にして欲しいのが、正面にあるGの駐車スペース。大抵の駐車場は平行に線が引かれていることが多いので、駐車スペースしたい場所とGの駐車スペースが平行になっていることを利用するのです。前を出す時にGの駐車スペースに前向きに駐車するように車を誘導していくと自然と車体と駐車スペースが平行に揃っていきます。

それから、前に出していく時に意識して欲しいのがハンドルをまっすぐに戻しておくことです。ハンドルをまっすぐに戻しておく、その後の幅寄せもハンドル操作がスムーズにいきます。ハンドルがまっすぐに戻っているのが分かりにくい場合は少し車を前に動かしてみて、車の動きをよく確認すると良いです。最後にバックして駐車スペースに入れていきますが、バックする前に左右のドアミラーを比較してどっちに寄っているかをまずは確認してください。修正の仕方は第三章の（４）で説明した幅寄せを行って終了になります。

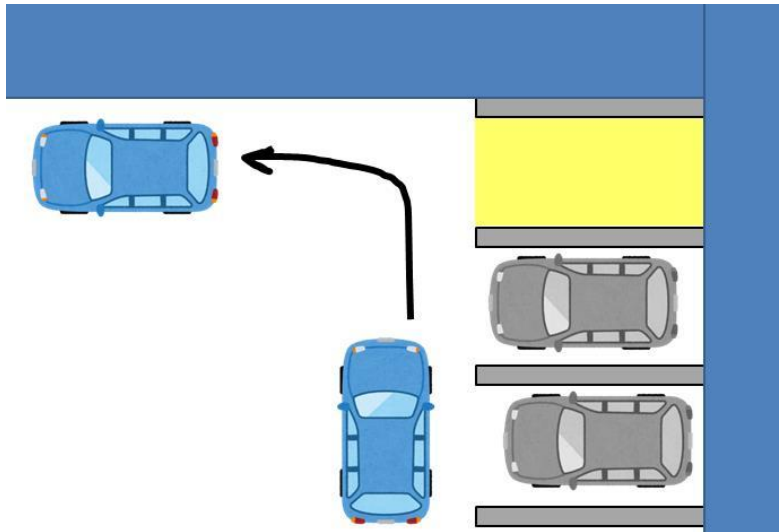
第六章 車庫入れの応用テクニック



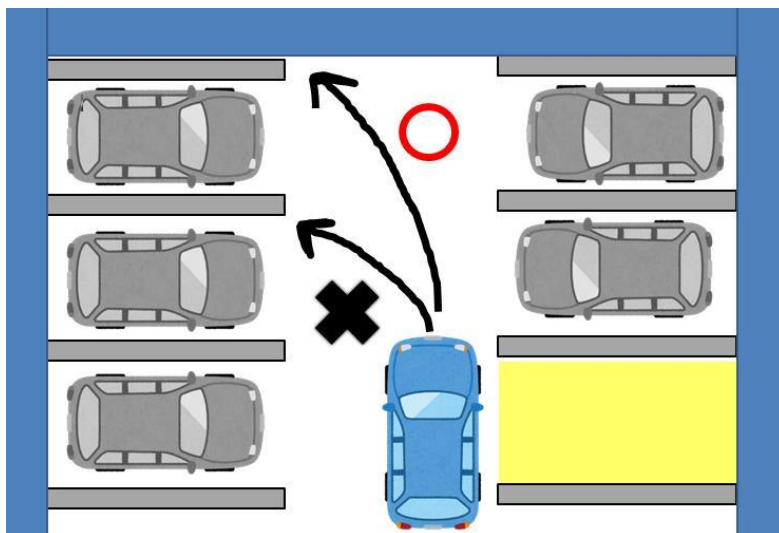
これで最後の章になりますが、最後は車庫入れの応用テクニックになります。車庫入れというのは本当に奥が深いです。私も車を運転し始めて 22 年になりますが、今までに色んな駐車場で車庫入れをしてきました。車庫入れの難しい所は駐車場によってその広さや駐車スペースの大きさ、駐車スペースの配置や形状が全く違ってくることです。どれ一つとして同じ駐車場がないというのが車庫入れをさらに難しくさせます。色んな場所で車庫入れができるようになるためには、その駐車場に合った方法で車庫入れを行うことが大切です。この章ではそれぞれの特徴と注意すべき点、その駐車方法について紹介していきます。

(1) 特殊な駐車場での駐車方法

まずは特殊な駐車場での駐車方法になります。例えば、下の図のように駐車場の一番奥しか停める場所が空いてない場合があります。この場合、第五章で紹介した「車庫入れの手順」の方法では、車体を斜めにするスペースがないので駐車することができません。この場合は図のように駐車スペースの手前で車体を直角曲げて駐車スペースと車体が平行になるように誘導されるのがコツです。その後、バックする前に左右のドアミラーを比べてどっちに寄っているかを確認して幅寄せして修正をしていきます。

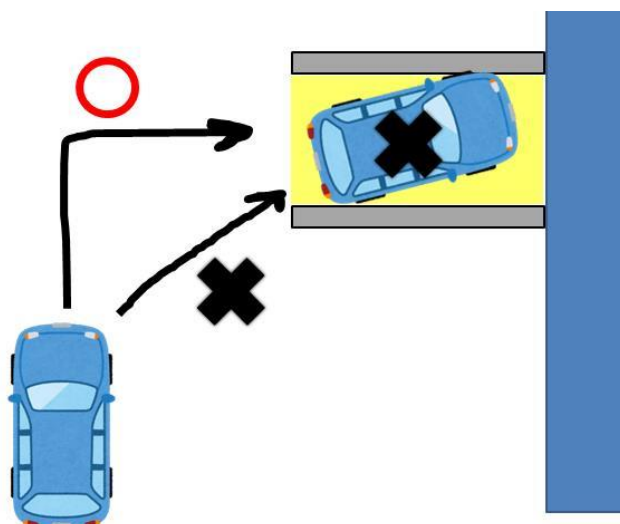


次は下の図に注目してください。この駐車場は駐車場の通路の道幅が極端に狭いです。こういった立地条件の場合、第五章の「車庫入れの手順」の方法で駐車しようとしてしまうと、最初に斜めに出す距離が足りず上手く駐車できません。こういった場合は少し工夫が必要です。最初の斜めに出す時のハンドルを回す量を「一回転」ではなく「半回転」くらいに少なくするのがコツです。そうすると、狭いスペースを有効に活用して斜めに傾けられます。

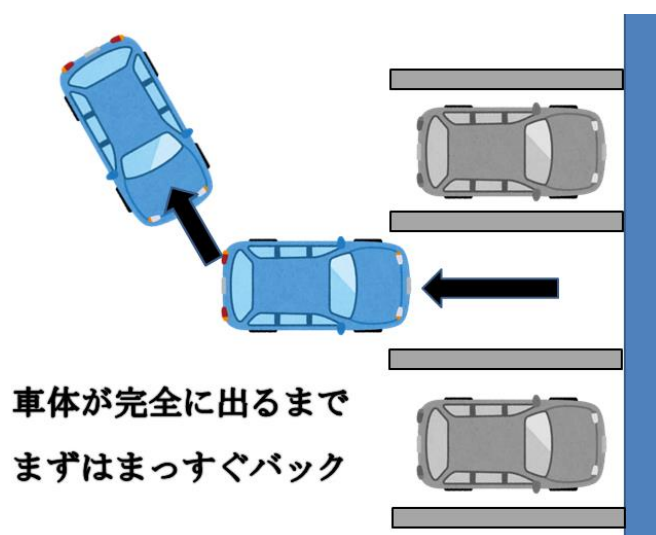


次は前向き駐車の方法です。第二章の（３）内輪差と外輪差の部分でも少し紹介しましたが、民家に隣接している駐車場は排気ガスや騒音の防止から「前向き駐車をお願いします」という看板が設置されている駐車場があります。まずは前向き駐車の入れ方のコツですが、下の図のように駐車スペースに対して最短距離で誘導しようとすると、

車体の向きが変わり切らずに斜めになってしまいます。ポイントは出来る限り直角に曲がること。少しずつハンドルを回すラインよりも一気にハンドルを回すラインの方が車体の向きを変えやすくなります。



次は前向き駐車の出る時のポイントです。バックする時にハンドルを回すと前輪が外側にふくらむ性質（外輪差）がありますので、出る時にいきなりハンドルを回してバックし始めてしまうと隣の車にぶつかってしまう危険があります。コツは下の図のように車体が駐車スペースを完全に出るまではまっすぐバックすることです。この時、隣の車で周りの状況も見にくい状態になりますのでゆっくり慎重にバックしましょう。

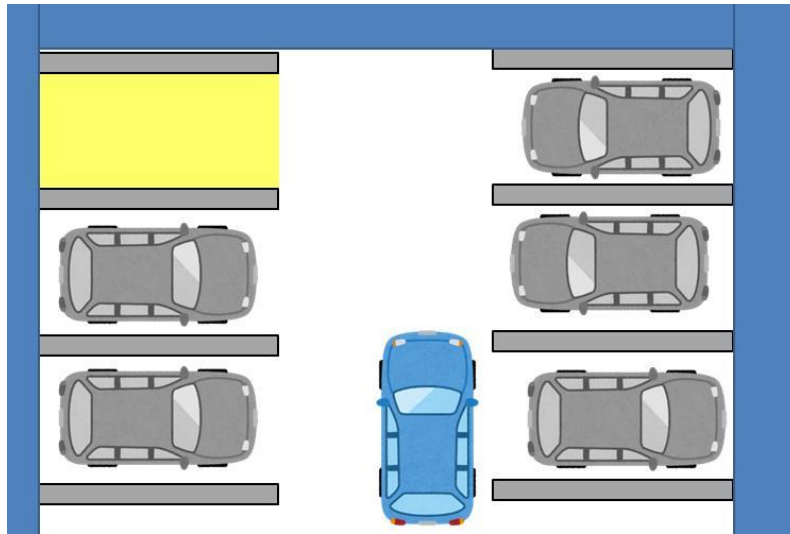


(2) 有料駐車場での車庫入れ



次は有料駐車場での車庫入れになります。有料駐車場には色々なタイプがありますが、今回はよくあるパターンとして「ロック式コインパーキング」と「ゲート式コインパーキング」について紹介していきます。

まずは「ロック式のコインパーキング」になります。ロック式のコインパーキングは駐車スペースに駐車すると数分後に駐車スペースに設置されている板がせり上がり、駐車している車とその駐車料金を支払わないと動かせない構造となっているタイプです。ロック式のコインパーキングでまず気を付けて欲しいのが、空いている駐車スペースの状況です。街中にあるコインパーキングは大抵狭い土地に無理にコインパーキングを作っていることが多いので、駐車場のスペースが極端に狭いことが多いです。さらにその駐車スペースも停めやすい所から順に埋まっていくので、空いている場所が最後の1台となると大抵入れにくい一番奥の場所となるのがよくあるパターンです。



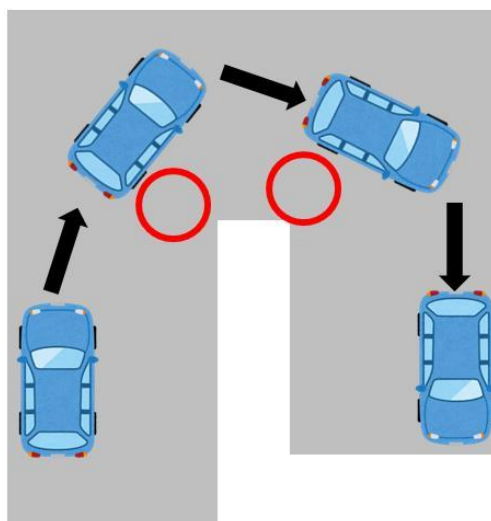
例えば、上の図のようなコインパーキングの状況だと、普通に前進で中に入って駐車しようとする狭すぎて切り返すことが出来ず駐車することは不可能です。こういう場合は、入り口からバックの状態に入ることでしか駐車することはできません。バックで進入してそのまま車庫入れをするのはかなりの運転技術が必要になりますので、車庫入れ初心者の方は別のコインパーキングを探す方が得策です。

次は「ゲート式コインパーキング」になります。ゲート式コインパーキングは駐車場の入口に駐車券発券機、出口に料金精算機があるパターンが多いです。ポイントは発券機と精算機に出来る限り車体を近づけること。実際にやってみるとよく分かると思いますが、この機械にしっかり近づけないと駐車券に手が届かなかったり、お金を落としてしまったりと車から降りなきゃいけなくなってしまいます。ゲート式コインパーキングのコツは、右のドアミラーを発券機や精算機にギリギリまで接近させることです。車体の右側は右のドアミラーが一番飛び出しているのです、右のドアミラーを意識すると距離感が掴みやすくなります。

(3) 立体駐車場での車庫入れ



最後は立体駐車場での車庫入れになります。大型のショッピングセンターなどには決まって立体駐車場がありますが、スロープの昇り降りや駐車場の狭さから苦手としている方も多いと思います。スロープを昇る時のポイントは、内輪差を意識することです。第二章の(3)内輪差と外輪差の部分でも説明しましたが、スロープを昇る時には後輪が通りやすいようなライン取りが大切です。下の図のように出来る限り曲がり角から離れるようにすると後輪が曲がりやすくなりスムーズに昇ることが出来ます。



スロープを昇っていると後ろから車が来ることがありますが、無理はせず出来る範囲で構いませんのでアクセルを踏んでスピードを落とし過ぎないように気を付けましょう。

立体駐車場の停める場所は上に昇る程、空いていることが多いので車庫入れに自信がない間は出来る限り最上階に近い階を選ぶのが無難です。駐車場の中に入りましたら、駐車されている車の陰から飛び出してくる歩行者や車がないか注意しながら速度も抑えて進みましょう。立体駐車場の中は薄暗くて見えにくいので、ヘッドライトを付けると効果的です。また、多くの立体駐車場は駐車場内やスロープが一方通行になっていますので、進む方向が間違っていないかをよく確認しましょう。スロープを降りる時はこう配によって速度が出やすくなりますので、ブレーキを適度に使い降りていく途中も他の階から合流してくる車も出てきますので注意してください。YouTube 動画のリンクも貼り付けてありますので参考にしてください。

【教習所の元指導員が教える！立体駐車場のコツ】

<https://youtu.be/LDmFRsPt3uw>

おわりに

最後までこの本を読んで頂き、本当にありがとうございました。「はじめに」の部分でも述べましたが、車庫入れ上達には「知識」と「経験」が必要です。「知識」についてはこの本を読み終えたことで十分に身に付いていますので、あとは地道に練習して「経験」を積み重ねてみてください。私は現在も東海地方でペーパードライバー向けのスクールをやっていますので、もし車庫入れに関して疑問や質問などが出てきましたら遠慮なくご連絡ください。車庫入れが上手にできるように心から祈っています。

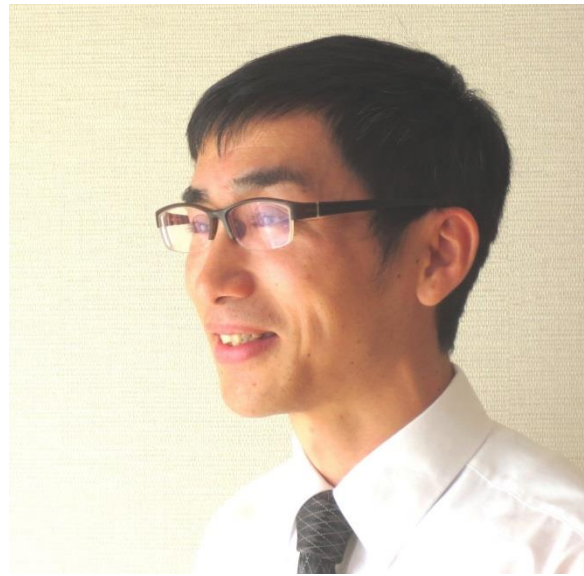
話は変わりますが、私が運転免許を取りに自動車学校に通っていた頃、普通乗用車はマニュアル車とオートマチック車がまだ混在していた時代でした。私が免許を取って初めて乗った車は実家にあったマニュアル車の日産サニーでした。マニュアル車はオートマ車に比べると操作が複雑でとても難しかったのですが、乗れば乗る程、運転が上手くなっていく感覚がとても楽しかったのを今でも覚えています。

車庫入れもマニュアル車の操作と近い感覚があります。車庫入れに慣れるまではとにかく難しくて嫌になってしまいますが、コツが掴めてくるとその難しさが逆に楽しく思えてきます。何にでも言えることですが、難しくて出来なかったことが努力して出来るようになった時の達成感は気持ちがいいですね。車庫入れも難しいからこそやりがいがあるのだと私は思います。

現在、自動運転がすごい勢いで進化していますが、近い将来自動運転が当たり前になって自分で車庫入れをしなくてもいい時代が必ずやってきます。「お父さんとお母さんが免許を取った頃は自分で車を運転して車庫入れも自分でやってたんだよね？すご〜い」と子供から言われる日もそんなに遠い未来ではないかもしれませんね。そう考えると、車庫入れを自分でしなければいけない今の時代が何となく特別なことに思えてきませんか？

運転教室スタートライン

稲山 巧



稲山 巧

愛知県内の自動車学校で 10 年以上指導員として勤務しておりました。
お客様の立場になって、分かりやすい丁寧な講習に心掛けております。

<経歴>

1980 年生まれ 愛知県小牧市出身

H14.3 名古屋経済大学経済学部消費経済学科 卒業

H14.3～H24.10 株式会社星が丘自動車学校 勤務

H26.10～H30.4 一般財団法人愛知県交通安全協会一宮自動車学校 勤務

H30.6 運転教室スタートライン 開業

<資格>

普通自動車指導員資格/普通自動車検定員資格/中型自動車指導員資格